

幌内地区で北海道植樹祭 約750人が森林再生に汗



鈴木知事、宮坂町長と記念撮影する
地元代表の小学生

北海道や林野庁北海道森林管理局、厚真町、公益社団法人北海道森と緑の会が主催する第73回北海道植樹祭が5月28日に幌内地区で行われ、町内外から約750人が参加しました。

式典で鈴木知事は「緑豊かな景色が一変した北海道胆振東部地震から5年目となり、ご遺族に哀悼の意をささげます。地域の皆さまに寄り添い、努力を続けます」とあいさつ。宮坂町長が「北海道胆振東部地震から5年が経ち、手を携えて立ち上がってきました。皆さんに植樹していただくことが、被災地復興の大きな一歩です」と述べました。

小学生5人による「緑の宣言」に続き、参加者全員でカラマツやシラカバなど1200本の苗木を植えました。

また、会場では木育フェスタ2023も開かれ、北海道胆振東部地震のパネルの展示や木工体験、被災倒木を使ったキーホルダーのプレゼントなどが人気を集めました。

高齢者大学入学式

令和5年度厚真町高齢者大学入学式が5月30日、総合福祉センターで開かれ、新入生2人を含む53人が入学しました。

41人が出席した入学式で、学長の宮坂町長は「新しいこと、興味あることに挑戦してください」とあいさつし、生徒会長の木下八重子さんが「やっと通常の生活ができるようになりました。大いに学んで笑顔になりましょう」と呼びかけました。



41人が出席した高齢者大学の入学式

各地で花壇づくり



厚真市街地で花壇づくりに汗を流す皆さん

6月に入り、町内では花壇づくりが行われました。

町建設協会は6月1日、厚真大橋そばの大型花壇に、8種類880株の花を植えました。鈴木英毅会長は「花を見た人の癒やしと元気につながって欲しい」と話しました。

また、6月8日には、厚真市街地にある86カ所の植樹升に花が植えられました。花フレンズや商工会女性部、町議会、北海道電力株式会社厚真発電所、地域おこし協力隊など約30人が参加し、ペチュニアやベコニアなど色鮮やかな花を植えました。

6月12日には、浜厚真野原公園で花壇づくりが行われました。自治会や地域住民など約30人が参加し、国道235号沿いの花壇に黄色やオレンジ色のマリーゴールドと真っ赤なサルビアの合計1200本を植えました。

浜厚真海岸でビーチクリーン活動

国際ロータリー第2510地区社会奉仕委員会は6月11日、浜厚真海岸でビーチクリーン活動を行い、町内外から155人が参加しました。

同委員会の石本要委員長は「この活動が、厚真町の復興の一助になれば」とあいさつ。参加者は、ごみ袋を手に4グループに分かれ、ごみ袋98袋計453kgものごみを回収しました。



分別しながら海岸のごみを拾う参加者たち



伊藤組土建株式会社が 東和地区で植樹



苗木を植樹する伊藤組土建の皆さん

伊藤組土建株式会社は5月14日、胆振東部地震で被災した東和地区の町有林で森林復興を願った記念植樹を行いました。

植樹は、伊藤組グループ創業130周年と同社安全衛生協会設立50周年を記念した社会貢献活動の一つで、町と苫小牧広域森林組合が協力しました。

植樹には、同社や関連会社の職員など約90人が参加し、青空の下で額にうっすらと汗をかきながら、崩落して土がむき出しになった斜面などにエゾヤマザクラ5本とカラマツの苗木1000本を植えました。宮坂町長は「創業130周年をお祝いすると共に、皆さんの社会貢献活動に感謝します」とお礼を述べました。

厚真ダム水神宮の取水式

厚真町土地改良区(細川隆雄理事長)が主催する厚真ダム水神宮取水式が5月17日、試験湛水が行われている厚真ダムに近い高台で行われました。関係者約30人は、営農水の安定供給と豊かな出来秋を祈りました。



出来秋を願う関係者たち

ロンタイ株式会社と森林再生に関する協定締結

町は5月18日、総合福祉センターで、のり面工事専門企業のロンタイ株式会社(本社・大阪府)と森林再生に関する協定を結びました。

創業66年の同社は、緑化資材の販売や自然の植生を再生させる国内トップメーカーです。胆振東部地震で被害を受けた町内の森林のうち、人の手で植林が難しい崩落地を対象に、森林再生に向けた緑化工法の試験を実施します。

5月23日から、幌内地区の町有林の崩落斜面で実証実験が始まり、13パターンの緑化工法を試し、3年かけて最も適した工法を町に提案します。



協定書を交わしたロンタイ株式会社と
厚真町の関係者

第1回津波防災地域づくり推進協議会

第1回厚真町津波防災地域づくり推進協議会が5月26日、総合福祉センターで開かれ、会長に東北学院大准教授の定池祐季さん、副会長に室蘭工業大学教授の有村幹治さんを選出しました。

同協議会は、「厚真町津波防災地域づくり推進計画」の策定に向けた連絡調整機関。町から委嘱を受けた国や北海道、学識者、電力会社、消防署・団、漁協、社会福祉協議会、地域住民など19人と警察など3人のオブザーバーで構成しています。定池さんは「皆さまの意見を聞きながら議論を進めます」と話しました。来年2月までに全4回の会議を開き、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震津波対策などについて意見を集約します。



会長就任のあいさつをする定池さん



東和地区で森林再生に向けた植樹会を開く



森林再生を願って植樹する親子連れたち

町とNPO法人北海道市民環境ネットワークが主催し、NPO法人近自然森づくり協会と雪印種苗協力の「森林再生に向けた植樹会」が6月11日、東和地区の町有林で行われ、親子連れなど42人が参加しました。

植樹は、ヤマグワやキハダ、ハルニレなど広葉樹41種類約200本を用意。8角形にカットしたシートに穴を開け、1種類ずつ苗木を植えて木の高さを計測しました。

また、植物の根に共生して土壌の養分を木に供給する「菌根菌」を着けた苗木と着けないものの2種類も植樹し、成長の違いを観察します。参加者は、額に汗をかきながら、斜面に足を取られないように丁寧に土をかぶせました。

植樹終了後、参加者の一人で白老町在住の陶芸家、前田育子さんは「工芸品の収益金の一部です。森林再生に利用してください」と町長に寄付目録を手渡しました。

北海道ウォーターセーフティ協会が 浜厚真で水難救助訓練

一般財団法人北海道ウォーターセーフティ協会は6月15日、浜厚真海岸でマリッジットを使った水難救助訓練を行いました。

同協会は、北海道を中心に関係機関と連携して水難事故防止や災害救助活動、事故防止活動などを実施。浜厚真海岸で行われるサーフィン大会のサポートも行います。

岸浩明理事長など3人が訓練に臨み、波に合わせたマリッジットの操作法や溺れた人の救助法など、不安定な海上で動作を確認しました。



溺れた人を想定した救助訓練



委嘱状を受け取る成田さん

成田智哉さんに厚真町デジタル田園都市 構想・地方創生政策アドバイザーを委嘱

町は6月15日、町内の起業家の成田智哉さんに厚真町デジタル田園都市構想・地方創生政策アドバイザーの委嘱状を交付しました。

同構想や地方創生について、有識者の目線で助言や提言を行ってもらうもので、同アドバイザーの委嘱は成田さんが初めて。成田さんは「官と民、デジタルとアナログ、ご高齢な方と若者など、さまざまな立場の人が本質的につながることで、地域の魅力を存分に引き出し、豊かな暮らしを育んでいきたいです」と語りました。